

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌 名	やぶなべ
号/発行年/頁	27 / 1983 / 41-44
タイトル	グダリ沼における水草の分布
著 者 名	菊池俊一

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

グダリ沼における水草の分布

3年 菊池 俊一

— はじめに —

我々生物部は、これまでグダリ沼においてアラリアの調査・採集は行ってきたが、水生植物・その周りの植物相などは本格的に調べたことがなかった。そのため、今回のキャンプではそれとともに、グダリ沼の大きさ・形状についても調べようということになった。

ここでグダリ沼について、いくつか説明をしておく。

- ① 青森市田代平高原内の湧水地、及びそこから流れる川のこと。
- ② その付近は牛が放牧されている。
- ③ ニジマス等の放流により、釣人が多数侵入しており、心ない者により、空びんやごみなどが投げられている所もある。
- ④ 日本では尾瀬ヶ原・八幡平の五葉沼・北海道の大沼等、ごく限られた水域にしか見られない貴重な存在であるスキナモが自生している。

ところがここ数年この沼でも変化がいくつか見られるようになってきた。

その変化とは、

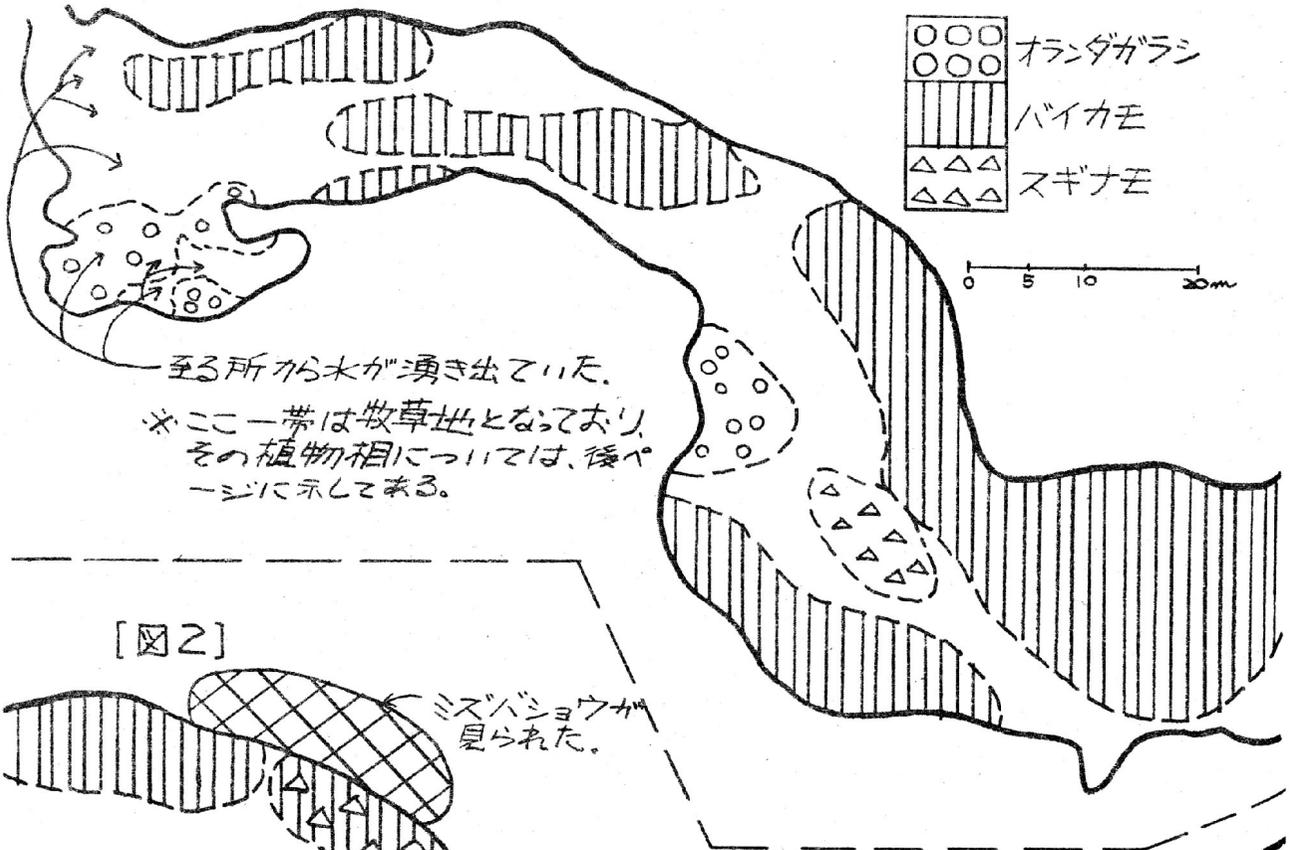
- ① 腐植質が増え、数年前までは見られなかったナミウスズシ（アラリアの一種）が見られるようになった。
- ② ユスリカの幼虫・アブの幼虫の卵塊が増えたことから、水がだいぶ汚くなって来たようだ。
- ③ 帰化植物であるオランダガラシの繁殖が著しい。

次ページからの報告は、これらの事実を踏まえた上で、『現在、どんな水草がどのような場所に、どの程度分布しているのか』を調査した結果である。

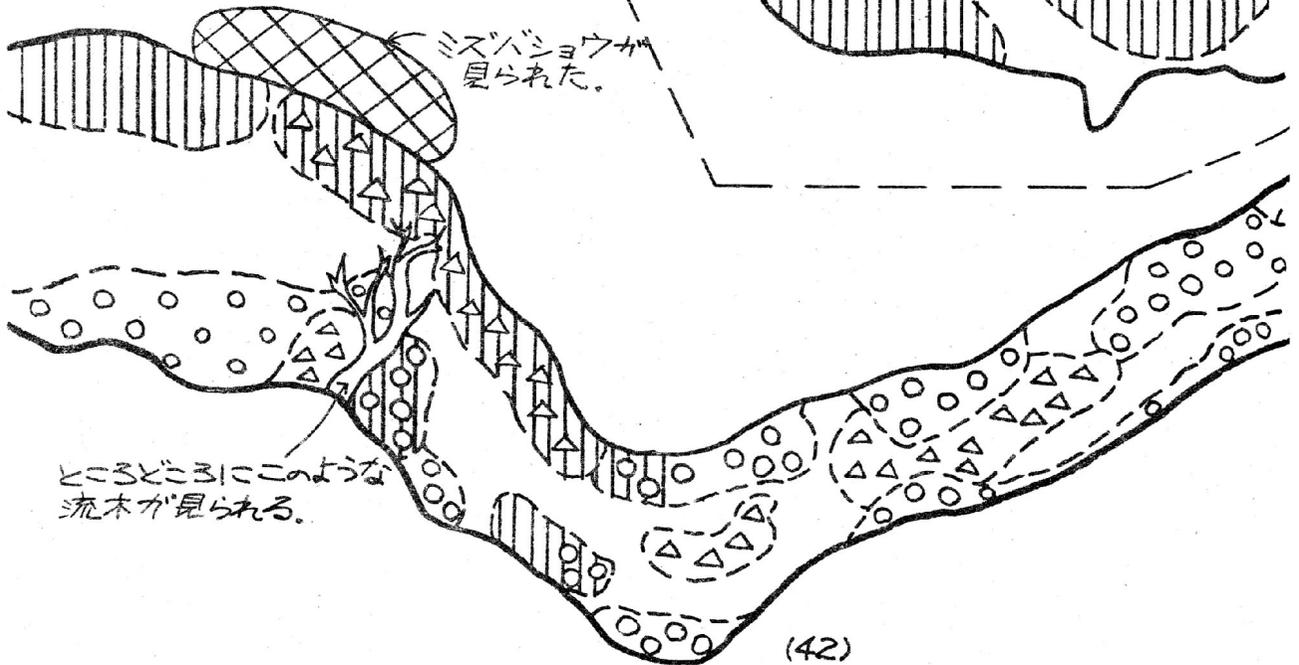
—— 調査結果 ——

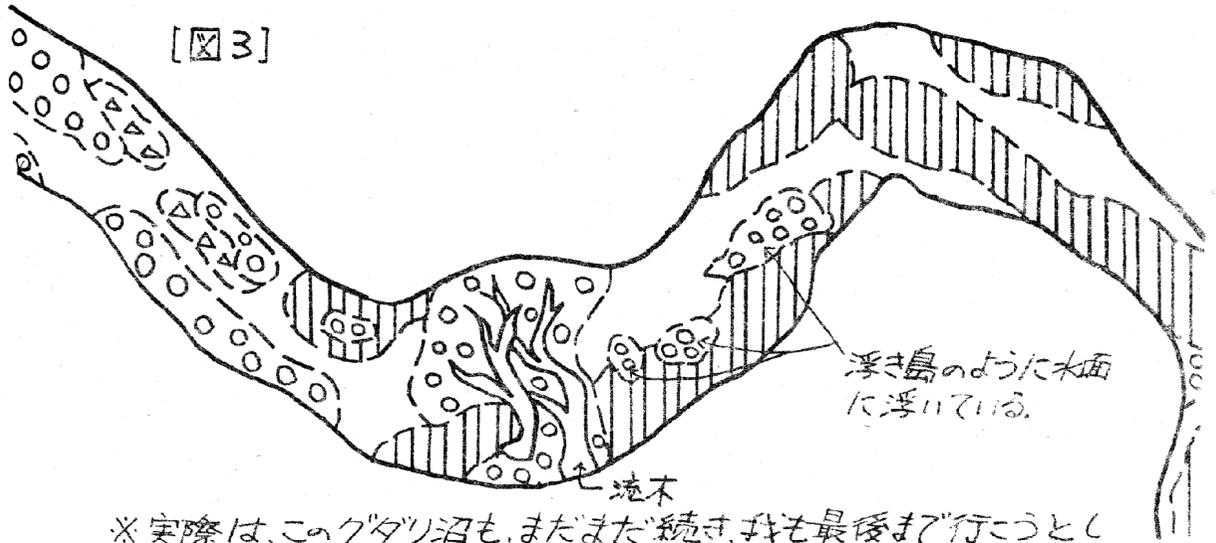
調査を行なったのは8月6、7日で、水草の種類・分布状況、地形が一目でわかるように、下図のような図に表すことにした。下図は全て実測値に基づくもので、実際の5000分の7となっている。

[図1] ※図1、2、3とも左→右に従って、上流→下流になっている。



[図2]





※実際は、このグダリ沼も、まだまだ続き、我も最後まで行こうとしたのだが、たどりつげなかつた。この後グダリ沼は他の流れと合流し、川幅を狭くしながらも続いていく。

——今回確認された水草について——

- スギナモ … 根茎は泥中を横走する。茎は再生力が強く、倒れた茎は各節から分枝して栄養繁殖を続ける。花期は7～10月末の霜の降る時期まで。下方から開花する。雄しべ1、雌しべ1. かなる両性花で、長さ約1～2mm。ごく限られた寒地の水域にしか見られない貴重な存在である。
- オランダガラシ … 抽水性の多年草で、低温に強く、繁殖力旺盛。湧き水の流れる所では冬季でも常緑性で、著しく肥大するが、真夏・真冬は少しおとろえる。茎はちぎれても容易に栄養体生殖を続ける。全体は水面上に浮いている。
- バイカモ … 水底が砂質・れき質で冷水の清流中に多く群生。全草は鮮濃緑色、茎の下方から白色の不定根が出て水底に固着し、上方は水中に漂う。再生力が強く、破片の節から発芽して大繁殖する。花期は3～11月。

——まとめ——

今回の調査でわかったことを次の表にまとめた。

水草	流速	底質	その他
スギナモ	比較的緩い所。 約10%	泥質	水深が深い中央部に多い。
オランダガラシ	流れが緩やかな所。又は全くない岸辺。	水に浮いているため関係なし。	湧き水がある所。下流へどんどん流れている。
バイカモ	比較的速い所。 約20~30%	砂質またはれき質	長さが2mにおよぶものもあった。

——おわりに——

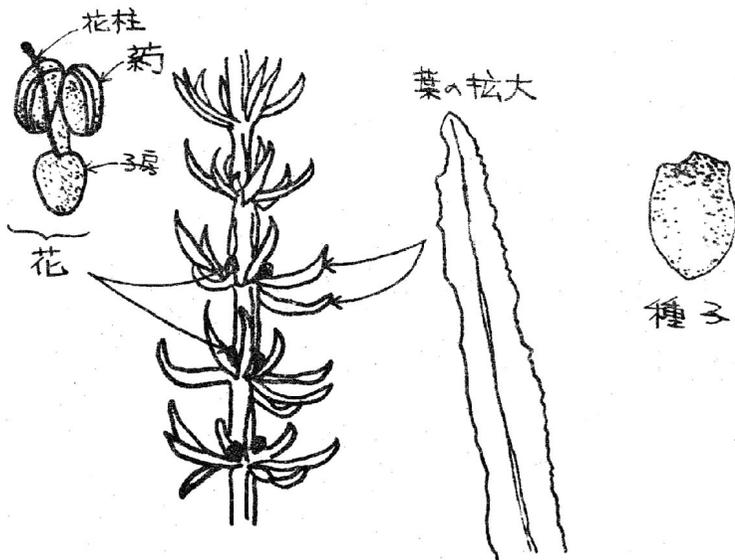
以上が今回の夏期のクダリ沼における水草の分布調査の報告であるが、今回はこれからの調査・研究の基礎づくりをしたにすぎないのであるから、今後、後輩達が、この調査を継続し、大きな成果が得られるよう期待する。そのための今後の課題をいくつかあげると、

- ① 水質、NH₄の濃度などを調査し、水質汚濁と生物相との関連
- ② 水生昆虫の分布と水草の分布の関連性
- ③ プラナリアの分布と水草の分布の関連性

などであるが上記のような『クダリ沼総合調査』の形に発展させ、継続して行ってほしいと思う。

※P.43の付図

スギナモ



(47)